

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 331

事務事業名	青年農業者活動事業
-------	-----------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	農林水産部		
課名	農業経営室		
課長名	柴田 和信	内線	262
担当者名	田原 幸四郎	内線	257

基本目標		活力に満ちた産業のまち
政策	040102	魅力ある農林水産業の振興
施策		農業の担い手の育成
関連施策		

会計	一般	
款	6	農林水産業費
項	1	農業費
目	3	農業振興費
事業コード	090100	

事業類型	5	負担金・補助金事業
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	大村市青年農業者会		
意図 対象をどのような状態にしたいか	将来の農業を担う意欲と技術・経営能力に優れた青年農業者を育成、確保する。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	農業技術・経営の実践能力を取得することを目的に活動する大村市青年農業者会の事業費に対し、一部を補助する。 (事業内容) ・栽培管理技術の向上(竹チップを使ったカボチャ栽培)・農業後継者の獲得活動・視察研修・青年交流会等・もち米の生産加工(田植、稲刈り等)		
事業期間	昭和 59 年度 ~ 平成 年度	実施方法	補助
根拠法令、要綱等	大村市補助金等交付規則、大村市農林水産振興事業補助金交付要綱		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 活動回数(定例会、交流会等)	計画値	30	30	30	17	
		実績値	30	30	13		
		達成度	100.0%	100.0%	43.3%		
活動指標	② 会員数	計画値	11	12	17	12	
		実績値	11	17	12		
		達成度	100.0%	141.7%	70.6%		
成果指標	① 活動した延べ会員数	計画値			216	204	
		実績値			100		
		達成度			46.3%		
成果指標	②	計画値					
		実績値					
		達成度					

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	300	300	300	300	300	300	300	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	300	300	300	300	300	300	300	
② 人件費(千円)	936	1,311	776	1,264	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.11	0.16	0.11	0.16				
時間外勤務(時間)	31	51	0	50				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	1,236	1,611	1,076	1,564				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	農業後継者の勧誘活動を行い、新しく2名の会員が加わった。しかし、30歳到達により2名が脱会し、さらに定例会等への出席がまったくなかった5名を脱会させたため、昨年度に比べて5名の減となった。
事業が抱える問題・課題等	参加人数の確保(定例会への参加が少ない)。参加率は6割。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	農業を発展させていくために、意欲と技術・経営能力に優れた青年農業者の育成は必要である。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	農業技術・経営の実践能力を習得することを目的に活動する大村市青年農業者会の支援を行うことは、将来の農業を担う青年農業者の確保育成を図るため市の関与は妥当である。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	会員数の目標値は達成できなかったが、活動内容と実績は評価できる。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	若い青年農業者が農業研修会等に参加し、県内他地域の会員と相互に交流しながら、意識改革と生産技術の向上が図られており、認定農業者への育成も図られている。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	JAや担い手育成基金から助成を受けており、市も支援していく必要があり、この負担割合は適当である。						
【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし		

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	定例会への参加率を上げるため、開催回数を少なくしたり、テーマを絞って開催したり、農業団体(福祉系)との交流を図るなどの取組を行う。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。